

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	国文学科	夜・通信	142	5	38	185	13	
	英文学科	夜・通信			8	155	13	
	美学美術史学科	夜・通信			68	215	13	
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	夜・通信	110	12	60	182	13	
	食生活科学科 食物科学専攻	夜・通信			43	165	13	
	食生活科学科 健康栄養専攻	夜・通信			30	152	13	
	生活環境学科	夜・通信			44	166	13	
	生活文化学科 生活心理専攻	夜・通信			44	166	13	
	生活文化学科 幼児保育専攻	夜・通信			51	173	13	
	現代生活学科	夜・通信			42	164	13	
人間社会学部	人間社会学科	夜・通信	142	20	30	192	13	
	ビジネス社会学科	夜・通信			20	182	13	
	社会デザイン学科	夜・通信			6	168	13	
国際学部	国際学科	夜・通信	42	0	15	57	13	
環境デザイン学部	環境デザイン学科	夜・通信	106	0	0	106	13	

(備考)

- ・国際学部国際学科、人間社会学部社会デザイン学科は令和6年度に設置した。
- ・環境デザイン学部環境デザイン学科は令和7年度に設置した。
- ・令和6年度より現代社会学科はビジネス社会学科に名称変更した。
- ・文学部、人間社会学部の全学共通科目は教職課程、図書館学課程、博物館学課程を含む
- ・生活科学部、環境デザイン学部の全学共通科目は教職課程、図書館学課程を含む。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学公式サイトにて公表

https://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/outline.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページ https://www.jissen.ac.jp/school/about/administrators/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	株式会社役員	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	経営全般
常勤	学校法人役員	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	教学事務統括 ICTの整備
非常勤	株式会社役員	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	外部視点からの学園経営への提言 ダイバーシティに関する支援
非常勤	株式会社役員	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	外部視点からの学園経営への提言 ステークホルダーとの関係性構築に関する支援
非常勤	株式会社役員	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	外部視点からの学園経営への提言 人事企画に関する支援
非常勤	法律事務所・弁護士	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	外部視点からの学園経営への提言 法務に関する支援
非常勤	一般社団法人役員	2024年4月～ 2027年度定時評議員会終結の時	卒業生との連携 外部視点からの学園経営への提言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの記載内容については、事前に大学教育研究センター委員会で確認し、決定しています。毎年度のシラバス作成スケジュールについては、6月頃に委員会で確認し、11月頃から授業担当教員に執筆依頼を行います。執筆依頼の際には、各項目における注意事項を示し、記載内容の充実を図っています。執筆されたシラバスについては、教育総合サポート部で未記入項目等の簡易的なチェックの後、各授業科目における責任者(学科主任・教務委員等)による第三者チェックを行い、内容・記述等が適正であるか確認し、必要に応じて授業担当教員に修正を依頼しています。シラバスは3月上旬に校了し、3月下旬頃からWebサイト及び学生支援システムにおいて公開しています。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/outline.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目における評価は、各学生の学修成果について、あらかじめシラバスに示した授業における到達目標と成績評価の方法・基準に基づき、授業担当教員が総合的に判定することで、厳格かつ適正に実施しています。科目の内容や方法に合わせて、試験によるもののほか、レポートやプレゼンテーション、授業への参加度などの評価方法を設定し、その配分(%)を示しています。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においては、客観的な指標としてGPAを設定しています。</p> <p>GPAは、成績評価を点数(GP)に換算(+A:4、A:3、B:2、C:1、D・欠・失[不合格]:0)し、「履修科目の単位数×GP」の合計÷履修科目の合計単位数(小数点以下第3位を四捨五入)で算出しています。</p> <p>GPAの算出方法については、全学生に配信している履修要項の他、大学Webサイトで公表しています。</p> <p>また、年2回前期・後期の成績発表後に、科目ごとの成績の分布状況の把握を行い、教員間や授業間での評価基準のばらつき等の問題がないか確認しています。各学生のGPAについても、学部・学科等の所属別に成績の分布状況を把握し、評価が適切か点検しています。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/structure.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定については、本学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を策定し公表しています。ディプロマ・ポリシーでは、「国際的視野」「美の探究」の2つの態度を核に、「研鑽力」「行動力」「協働力」の3つの能力を身につけ、所定の卒業要件単位を修得した者に学位を授与するものとして全学的に定めています。また、各学科においては、更に専門分野に応じた態度・能力等を策定しています。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力については、授業科目の修得の他、本学独自の成長診断テストを実施し、その達成度を測り、学生が成長を実感し、学修意欲を高める取り組みを行っています。</p> <p>最終的な卒業認定は、修得単位数に基づき教授会での判定により、学長が決定します。</p>	

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>(文学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/conferment.html (生活科学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/conferment.html (人間社会学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/conferment.html (国際学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/international_studies/policy/conferment.html (環境デザイン学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/environmental_science_and_design/policy/conferment.html</p>
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
財産目録	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
事業報告書	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
監事による監査報告(書)	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 2025 度 事業計画書 対象年度: 2025 年度)
公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
中長期計画 (名称: 中期計画 (2025~2034 年度) 対象年度: 2025 年度~2034 年度)
公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-01.html

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-01.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html ）
（概要） 文学部では、日本、東洋、西洋の文学、言語、美術の各分野における幅広い学識を受け、現代社会に寄与しうる人材の育成に努めることを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/conferment.html ）
（概要） 言語・文芸・芸術・歴史・文化の分野を中心に学び、また、隣接する人文諸科学、社会諸科学等の幅広い教養を身につけることを求めます。国際的視野を持ち、グローバル化や多様化の進む社会に積極的に関わっていくことができるよう専門知識を身につけ、各学科の所定の単位を修得した者に、「学士（文学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/organization.html ）
（概要） 日本文学、日本語学、漢文学、英語圏文学・文化、言語学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、美学、民俗芸能、博物館学、国語科・英語科・美術科教育等の領域の学識を涵養すること、また、グローバル化や多様化の進む社会で主体的に生きていくための情報発信力や論理的思考力を養成していくことを目的として、各学科の教育課程を編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/admission_guidance/information/admission_policy/university.html ）
（概要） 日本・外国を問わず広く文化や歴史を学び、グローバル化や多様化の進む社会と積極的に関わりを持ち、他の人々と協調して生きていこうとする人を求めます。 入学時に求める学力・態度・汎用能力 ①ディプロマ・ポリシーに掲げた言語・文芸・芸術・歴史・文化の分野に強い関心を持ち、それらを積極的に学ぶ意欲のある人。 ②学びのなかで自分の意見を持ち、他の人たちと協力しながら、広く社会に向けて情報発信を行おうとする人。 ③文学部で学ぶ上で必要な国語・英語・日本史・世界史などの科目について、高等学校卒業程度の学力を身につけた人。

学部等名 生活科学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html ）
（概要） 生活科学部では、食物、栄養、健康、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/conferment.html ）
（概要） 自然科学、社会科学、人文科学分野の広い教養を土台として、生活を科学的にとらえるための基礎的知識を修得し、各学科の専門的知識と技術を身につけ、社会に貢献できる力を得て、各学科・専攻の所定の単位を修得した者に、「学士（生活科学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/organization.html ）
（概要） 食物、栄養、健康、ライフスタイル、心理、幼児・保育、地域づくり、現代の暮らしと社会の諸課題に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的として、各学科・専攻の専門課程カリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/admission_guidance/information/admission_policy/university.html ）
（概要） ライフスタイル、心理、幼児・保育、地域づくり、地球環境、情報、メディアなどの分野において、生活者としての視点から、人間生活を理論と技術の両面から学び、現代社会のさまざまな問題を科学的にみつけ、解決できる力と技術、コミュニケーション能力を講義、実験、実習、演習を通し身につけます。したがって高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、自然科学への興味を持ち人々の生活を広く追及し、生活の向上と福祉に貢献する意欲的で向上心のある人材を求めます。

学部等名 人間社会学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html ）
（概要） 人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/conferment.html

（概要）

「人を知り、社会を知り、ビジネスを学び、よりよい未来をデザインする」をモットーに、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する 21 世紀社会において活躍できる女性の育成をめざしています。

そのため、人間社会学部では、全学ディプロマ・ポリシーとして求める内容を含め、以下に掲げる態度と能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（人間社会学）」の学位を授与します。

〈態度〉

多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】

①豊かなコミュニケーション能力を身につけ、国内外の人々と相互理解と協力関係を築こうとする態度。

〔学部学科共通〕

②国内外の多様な人間と社会のあり方について理解し、受容し、尊重しようとする態度。

③国内外で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

①人間と社会とビジネスに関して学び、よりよい未来をデザインしようとする態度。

②人間と社会のあり方に関して望ましい価値観を探究しようとする態度。

③高い倫理観をもって、自己の言動・価値観を批判的に振り返りつつ、行動する態度。〔学部学科共通〕

〈能力〉

学修を通して自己成長する力【研鑽力】

①現代社会の諸課題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。

②専門的知識とスキルを身につけ、社会人・職業人として活躍することができる。

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。

②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。

相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】

①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。

②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/organization.html

（概要）

人間社会学部では、全学ディプロマ・ポリシーと学部のディプロマ・ポリシーに基づき、教育課程編成と教育内容、教育方法、評価方法について、以下のとおり定めます。

教育課程編成

①1、2 年次に学部の基本的な知識とスキルを習得するための学部共通科目を配置します。

②1 年次から 4 年次まで必修の演習科目を配置します。

③学科の専門科目を「基幹科目」と「展開応用科目」に分け、体系的に配置します。

④学部の授業を通して得られる資格科目を配置します。

⑤4 年次に全員が履修する卒業研究を配置します。

⑥学科の枠を超えた他学科履修科目を設定します。

教育内容〔学部学科共通〕

- ①学部共通教育では、人間、社会、ビジネス、未来デザイン、リサーチ・スキル、コミュニケーション・スキルについて学びます。
- ②1、2年次の「基礎演習」では、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得し、3、4年次の「専門演習」では、専門的な知識とスキルを身につけます。
- ③2年次以降の「基幹科目」では、各学科の専門分野の基本となる科目や資格取得のための科目を配置し、段階的・系統的に専門的な知識・スキルを修得できるようにします。
- ④「展開・応用科目」では、各学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置し、専門的な学問分野を体系的に学びます。

教育方法〔学部学科共通〕

- ①講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。
- ②PBL(ProjectBasedLearning)、フィールドワーク、ワークショップ、実験、実習、調査などのアクティブラーニングにより、学生が主体的に学び、考え、実践することのできる授業を行います。
- ③1年次から4年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、ディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。
- ④学外の企業や地域との連携を通じて、社会の様々な問題を解決し、よりよい未来をデザインするための教育を行います。

評価方法〔学部学科共通〕

- ①授業の学修到達目標及び成績評価の方法・基準に基づいて、客観的かつ公正に評価します。
- ②GPAを活用し、客観的・総合的に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.jissen.ac.jp/admission_guidance/information/admission_policy/university.html）

（概要）

グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する21世紀の社会において活躍するために、正解のない多種多様な社会課題に対して、主体的に考え、協働し、意欲的に行動する人を求めます。

入学時に求める学力・態度・汎用能力

- ①現代の人間、社会、ビジネス、及び現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会の動向に強い関心を持っている人。
- ②自分の考えをしっかりと持ち、他の人と協働しながら、積極的にリーダーシップとフォロワーシップを発揮できる人。
- ③人間社会学部で学ぶ上で必要な英語、国語、地理歴史、公民、数学、情報などに関し、高等学校卒業程度の学力を身につけた人。

学部等名 国際学部

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html）

（概要）

国際学部では、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語以外の外国語に慣れ親しみ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/international_studies/policy/conferment.html ）
（概要） 国際語である英語の運用能力とコミュニケーション力を身につけ、加えて英語以外の外国語に対する知識と多様化する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる自立心を獲得し、所定の単位を修得した者に「学士（国際学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/international_studies/policy/organization.html ）
（概要） 国際学部は、英語運用能力を高めるとともに、言語、日本及び海外の文化、社会、観光をはじめとする広い学識を授け、言語、民族、宗教、文化の異なる人々と共存する社会で活用できる知識と能力の養成を目的として専門課程カリキュラムを編成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/admission_guidance/information/admission_policy/university.html ）
（概要） 世界の共通語として機能する英語の運用能力の向上を図り、世界の多種多様な言語、民族、宗教、文化について理解を深める意欲を有し、グローバル社会において活躍できる実践力を身につけた人材の育成を目指しています。したがって、高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、積極的にコミュニケーション能力を高め、主体的に行動できる意欲的で向上心のある人を求めます。

学部等名 環境デザイン学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html ）
（概要） 生活環境、都市環境、社会環境などにわたって幅広く環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解し、実際の社会課題などに応用することができる力を身につけた人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/international_studies/policy/conferment.html ）
（概要） ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを身につけ、社会課題などに応用することができる力を得て、所定の単位を修得した者に「学士（環境デザイン学）」の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
https://www.jissen.ac.jp/learning/environmental_science_and_design/policy/organization.html）

（概要）

ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性とデザインに関する幅広い学識を授け、社会における実践力を養うことで創造社会において活躍できる知識と能力の養成を目的として専門課程カリキュラムを編成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
https://www.jissen.ac.jp/learning/environmental_science_and_design/policy/new_student.html）

（概要）

アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に興味を持ち、デザインに対して意欲的に取り組み、創造社会において活躍できるデザインスキルとデザインマインドを身につけた人材の育成を目指しています。したがって、高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、多様な視点からデザイン力を磨き、実践する意欲と行動力のある人を求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	31人	7人	4人	4人	9人	55人
人間社会学部	—	16人	7人	4人	0人	5人	32人
国際学部	—	6人	4人	1人	0人	2人	13人
生活科学部	—	31人	20人	3人	2人	31人	87人
環境デザイン学部	—	1人	0人	0人	1人	2人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				407人			407人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://gyoseki.jissen.ac.jp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学期ごとに、学生による授業アンケートとそのフィードバックを行うと共に、授業改善や学生の主体的学びの促進等の授業改善を目的とした研修会等を計画し、実施しています。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	310人	395人	127.4%	1280人	1437人	112.3%	20人	10人
生活科学部	330人	346人	104.8%	1568人	1620人	103.3%	4人	5人
人間社会学部	260人	335人	128.8%	920人	1103人	119.9%	0人	0人
国際学部	120人	156人	130.0%	240人	291人	121.3%	0人	0人
環境デザイン学部	81人	113人	139.5%	81人	113人	139.5%	0人	0人
合計	1101人	1345人	122.2%	4089人	4564人	116.2%	24人	15人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	358人 (100%)	14人 (3.9%)	325人 (90.8%)	19人 (5.3%)
生活科学部	428人 (100%)	10人 (2.3%)	394人 (92.1%)	24人 (5.6%)

人間社会学部	212人 (100%)	3人 (1.4%)	205人 (96.7%)	4人 (1.9%)
合計	998人 (100%)	27人 (2.7%)	924人 (92.6%)	47人 (4.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
株式会社KADOKAWA、株式会社エイチ・アイ・エス、東レ株式会社、株式会社紀文食品、東ソー株式会社、株式会社久世、積水ハウス株式会社、キューピー株式会社、株式会社ワタナベエンターテインメント、株式会社みずほ銀行、株式会社JTB、株式会社横浜銀行、鹿島建設株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	358人 (100%)	323人 (90.2%)	12人 (3.4%)	13人 (3.6%)	10人 (2.8%)
生活科学部	442人 (100%)	407人 (92.1%)	7人 (1.6%)	21人 (4.7%)	7人 (1.6%)
人間社会学部	227人 (100%)	209人 (92.1%)	5人 (2.2%)	6人 (2.6%)	7人 (3.1%)
合計	1027人 (100%)	939人 (91.4%)	25人 (2.4%)	40人 (3.9%)	23人 (2.2%)
(備考)					
・文学部から生活科学部に転部2名。転部後の入学者数および修業年限期間内卒業・修了者数に2名計上。					
・その他には、休学による在学期間不足者、転科による修業年限期間1年延長者を含む。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、毎年度シラバスに示しています。シラバスについては、学生の修学に役立つよう具体的な記述をすると共に、第三者チェックを行い、内容・記述等が適正であるか確認しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
卒業の認定については、本学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し公表しています。ディプロマ・ポリシーで定めている「国際的視野」「美の探究」の2つの態度を核に、「研鑽力」「行動力」「協働力」の3つの能力を身につけ、所定の卒業要件単位を修得した者に学位を授与します。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国文学科	124 単位	有	半期 22 単位
	英文学科	124 単位	有	半期 22 単位
	美学美術史学科	124 単位	有	半期 22 単位
生活科学部	食生活科学科	124 単位	有	半期 22 単位
	生活環境学科 (2023 年度以前入 学者)	124 単位	有	半期 22 単位
	生活環境学科 (2024 年度入 学者)	130 単位	有	半期 22 単位
	生活文化学科	124 単位	有	半期 22 単位
	現代生活学科	124 単位	有	半期 22 単位
人間社会学部	人間社会学科	124 単位	有	半期 22 単位
	ビジネス社会学科	124 単位	有	半期 22 単位
	社会デザイン学科	124 単位	有	半期 22 単位
国際学部	国際学科	124 単位	有	半期 22 単位
環境デザイン学部	環境デザイン学科	130 単位	有	半期 22 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.jissen.ac.jp/life/institution/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること
2025 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	770,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	810,000 円	240,000 円	460,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 食物科学専攻	790,000 円	240,000 円	440,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 健康栄養専攻	790,000 円	240,000 円	450,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活文化学科 生活心理専攻	790,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費
	生活文化学科 幼児保育専攻	810,000 円	240,000 円	420,000 円	施設設備費、実験実習費
	現代生活学科	790,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費
人間社会学部	人間社会学科 ビジネス社会学科 社会デザイン学科	770,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費
国際学部	国際学科	830,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費
環境デザイン学部	環境デザイン学科	790,000 円	240,000 円	420,000 円	施設設備費、実験実習費

2024・2023 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	770,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	810,000 円	240,000 円	400,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 食物科学専攻	790,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 健康栄養専攻	790,000 円	240,000 円	390,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活環境学科	790,000 円	240,000 円	360,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活文化学科 生活心理専攻	790,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
	生活文化学科 幼児保育専攻	810,000 円	240,000 円	360,000 円	施設設備費、実験実習費
	現代生活学科	790,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
人間社会学部	人間社会学科 ビジネス社会学科 社会デザイン学科	770,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
国際学部	国際学科	830,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費

2022 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	740,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	780,000 円	240,000 円	400,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 食物科学専攻	760,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 健康栄養専攻	760,000 円	240,000 円	390,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活環境学科	760,000 円	240,000 円	360,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活文化学科 生活心理専攻	760,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
	生活文化学科 幼児保育専攻	780,000 円	240,000 円	360,000 円	施設設備費、実験実習費
	現代生活学科	760,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
人間社会学部	人間社会学科 現代社会学科	740,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) 学科ごとに担任制度やアカデミック・アドバイザー制度を設け、学生の修学上の悩みなどに対し、専任教員と随時相談できる環境を整えています。例年学生の夏期休暇期間を利用し、「実践✿修学・就活支援 DAY」を開催し、学生一人ひとりの修学状況、本学の就職状況や就職支援の取り組みを保護者と情報共有し、学生の修学意欲の向上や問題の解決に取り組んでいます。さらに、GPA が著しく低く単位の修得状況が悪い場合は、担任（又はアカデミック・アドバイザー）が学生と面談し、適切な履修計画、授業への取り組み方など学生生活上の指導を行います。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) 「学生の自信を高め、成長を実感できる支援の実現」のために、「入学前から卒業後まで、学生一人ひとりの個性を大切にされた個別支援体制」を取っています。就職、進学、留学のキャリア支援等、多様な学生一人ひとりに対する個別支援を行っています。社会人基礎力を身に付けるため「実践入門セミナー」や「キャリアプランニング」等、低学年次からキャリア教育科目やプログラムを正課に取り入れ、キャリア形成に必要な能力を積み上げていきます。また、正課外では低学年次向けに、本学主催の「J ミッション」を実施し、企業との課題解決型プログラムに取り組んでいます。大学2年次からはインターンシップに取り組むための基礎講座、大学3年生からは、就職活動で必須となる自己分析や応募書類の書き方、面接指導、業界研究講座やセミナー他、面談による個人指導を行っています。キャリアサポート部の職員だけでなく経験豊富なキャリアアドバイザー、そして内定を獲得した学生で構成する「J-STAFF」が、個別相談を利用しやすい環境をつくり、就職活動についての質問や悩みを聞き、円滑な活動ができるようサポートしています。個人相談を軸に自己分析から企業研究、ES や履歴書の書き方や面接まで、就職活動に必要な支援を一人ひとりに目を向け行っています。また、本学は学生が社会で活き活きと活躍し花開いて初めて支援が実を結んだと考えているため、卒業後も相談できる体制を整備しています。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 本学では「身体とこころのサポート」として、学生時代に自立した女性としての健康増進維持の自己管理能力を身につけられるように、①「自立した女性」の育成と正確な健康情報を選択し、知識として身につけ、健康的な行動が出来るための実践力を培う、②「実践力をもった女性」の育成、を行っています。そして、在学中の怪我や病気、こころの迷い・不安などに対して、保健室や学生相談室のスタッフがサポートしています。

また、障害学生等の合理的配慮が必要な学生への支援として、必要に応じて入学前から関係部署で事前相談を行い、入学試験や入学後の支援について検討しています。また、入学後は全員が提出する「入学者個人カード」や「健康診断問診票・受診票」で身体障害者手帳保持の有無を確認し、学生の希望に応じて関係部署にて、授業における合理的配慮や学生生活、キャリア支援等を行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/index.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103037
学校名 (〇〇大学 等)	実践女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 実践女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		357人 () 人	340人 () 人	—
内 訳	第Ⅰ区分	183人	172人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅱ区分	101人	94人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅲ区分	—	59人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	—	15人	
区分外 (多子世帯)	人	人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				—
合計 (年間)				386人 () 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	16人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	—	前半期	人 後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	19人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	55人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	55人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。